

安達太良山の噴火警戒レベル表の改定（協議）

- ・ 「火山防災協議会（書面開催）における意見について（送付）」（令和3年10月6日 3危管第2865号）において、「レベル1の想定される現象等にある【過去の事例】1996年9月について「白色噴煙」を「噴気」に修正する」との意見が報告された。
- ・ 気象台において1996年当時の機動観測実施報告を確認したところ、当該事象の記述は「噴気」であった。
- ・ このため、安達太良山の噴火警戒レベル表の当該箇所を「白色噴煙」から「噴気」に改めることを提案する。



平成21年3月31日運用開始
令和元年9月25日改定

安達太良山の噴火警戒レベル

種別	名称	対象範囲	レベル (キーワード)	火山活動の状況	住民等の行動及び登山者・入山者等への対応	想定される現象等
特別警報	噴火警報（居住地域） 又は噴火警報	居住地域及びそれより火口側	5 (避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	危険な居住地域からの避難等が必要。	<ul style="list-style-type: none"> ●火口から概ね4km以内の居住地域に大きな噴石が飛散するような噴火が発生、あるいは切迫している（火砕流・火砕サージは居住地域近くまで）。 ●融雪型火山泥流が居住地域に到達、あるいは切迫している。 <p>過去事例 有史以降の事例なし</p>
			4 (高齢者等避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される（可能性が高まっている）。	警戒が必要な居住地域での高齢者等の要配慮者及び特定地域の避難、住民の避難の準備等が必要。	<ul style="list-style-type: none"> ●火口から概ね4km以内の居住地域に大きな噴石が飛散するような噴火の可能性（火砕流・火砕サージは居住地域近くまで）。 ●融雪型火山泥流が居住地域に影響を及ぼす噴火の可能性。 <p>過去事例 有史以降の事例なし</p>
警報	噴火警報（火口周辺） 又は火口周辺警報	火口から居住地域近くまで	3 (入山規制)	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常の生活。登山禁止・入山規制など危険な地域への立入規制等。状況に応じて特定地域の避難、高齢者等の要配慮者の避難の準備等が必要。	<ul style="list-style-type: none"> ●火口から概ね2.5km以内に大きな噴石が飛散、火砕流・火砕サージ、融雪型火山泥流が流下するような噴火の発生、またはその可能性。 <p>過去事例 1900年7月17日：沼ノ平火口で水蒸気噴火</p>
			2 (火口周辺規制)	火口周辺に影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常の生活。火口周辺への立入規制等。状況に応じて特定地域の避難の準備等が必要。	<ul style="list-style-type: none"> ●火口から概ね1km以内に大きな噴石が飛散するような噴火の発生、またはその可能性。 <p>過去事例 1899年8月24日：沼ノ平火口で水蒸気噴火</p>
予報	噴火予報	火口内等	1 (活火山であることに留意)	火山活動は静穏。火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）。	状況に応じて火口内への立入規制等。	<ul style="list-style-type: none"> ●火山活動は静穏。 ●状況により火口内に影響する程度の火山灰や火山ガス等の噴出。 <p>過去事例 1996年9月：白色噴煙30m、沼ノ平中央部で泥が噴出し直径100mに飛散 2000年2月：一時的に噴気が300mまで上がる</p>

※特定地域とは、居住地域よりも安達太良山の想定火口に近い所に位置する、または孤立が想定される集客施設を指す。居住地域より早期に避難等の対応が必要になることがある。

※融雪型火山泥流は積雪期のみ想定される。

■各レベルにおける具体的な規制範囲等については各市町村の地域防災計画等で定められています。

■最新の噴火警戒レベルは気象庁HPでもご覧になれます。

<https://www.jma.go.jp/jma/index.html>

14m, 東西約12mであった。堆積した泥の表面は黒く変色していたが内部は灰色で、足を踏み入れると沈み込む程度の粘性であった。噴出孔の直径は約10cmで噴出孔内部の温度は65℃(深さ約1.5m)、噴気は白色で高さ50cm, 臭いはなかった。火山ガス測定結果は硫化水素0.7%, 炭酸ガス12%が検知され、亜硫酸ガスは検知されなかった。堆積した泥の噴出孔から噴出したと思われる泥の飛沫が、直径約100mの範囲で確認された。

噴出は、聞き取り調査の結果9月1日頃と推定される。9月1日午前に登山者が馬ノ背から沼ノ平で噴気が出ているのを目撃し写真を撮影している(写真4)。その写真からは沼ノ平中央部で高さ約30mの白色の噴気が出ており、泥の飛沫が広範囲に飛散した跡が確認できる。

6月5日に確認された泥水(第9図③)の噴出は続いており、噴出孔から周辺に流れ出しており、その面積は南北約17m, 東西約5mであった。噴出している泥水の温度は28℃, pH2.5であった。

9月27日の観測では、春からの泥水の噴出(第9図③)は終わっていたが、沼ノ平北部で新たな泥水(第9図④)の噴出が見られ、泥水の温度は35℃であった。また、10月23日の泥水の温度は48℃で、泥水噴出量は9月27日より少なかった。

沼ノ平北西部で新たな地熱変質地が確認された。地表が白色及び黄色昇華物で変色しており、ガス臭(臭い1)が感じられた。面積は長径約8m, 短径約5mで地中温度は96℃(深さ約10cm)であった。

新たに確認された沼ノ平北西部の地熱変質地で、データロガーによる地中温度の連続観測を行った。観測期間は9月27日から10月23日で、温度センサーの深さは約60cmである。第10図に測定したデータのグラフを示す。地中温度は93~94℃ではほぼ一定の値であった。

沼ノ平西方の噴気地熱地帯は、沼ノ平から沼尻方向へ開けている沢を挟む両側で噴気活動が活発である。付近一帯ガス臭が強く感じられ、いたる所から噴気を噴出している。噴気孔は黄色昇華物が付着しており、噴気の高さは高いところで10mで、火山ガスは硫化水素と炭酸ガスが検知された。この噴気地熱地帯のすぐそばを登山道が通っている。9月19日の福島地方気象台による現地観測で、登山道付近に新たに噴気が確認されたが、その後はそれ以上の拡大傾向は見られない。